

2026年4月1日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 さ い か 屋
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 山 野 井 輝 夫
(コード番号 8254 東証スタンダード市場)
問 合 せ 先 常 務 取 締 役 中 野 宏 治
(TEL.046-822-8040)

中期経営計画策定のお知らせ

当社は、2023年8月期に9期ぶりに黒字に転換、2025年8月期まで3期連続の黒字でのV字回復を達成いたしました。再生後の新たなる企業価値向上に向け、中期経営計画を策定しましたので、以下のとおりお知らせいたします。

記

1. 計画作成の背景

当社は、2023年8月期に9期ぶりに黒字に転換、2025年8月期まで3期連続の黒字でのV字回復を達成いたしました。今期におきましては、「百貨店事業」「テナント事業」を重点的に推進すると共に、再生後の新たなる企業価値向上に向け、「資本構造の健全化」及び「配当再開の検討」をさし示すべく「資本構造の見直し」をおこなっております。資本構造の見直しにおきましては、2月26日の臨時株主総会にて決議した利益剰余金欠損の解消により、今期から配当が可能となり、今期末として5円の配当を予定しております。また、2月6日公表「第三者割当による新株式及び第1回新株予約権（行使価額修正条項付）の発行に関するお知らせ」のとおり、親会社である株式会社AFC-HD アムスライフサイエンスとEVO FUNDに第三者割当をおこない、収益構造の改善を可能とする資金を調達すると共に、新株予約権の行使により流通株式時価総額が増加することから、スタンダード市場の上場維持基準（流通株式時価総額）への適合を見込んでおります。

このような状況の中、再生後の新たなる企業価値向上に向け、「中期経営計画」を策定することといたしました。

2. 中期経営計画

(1) 計画の骨子

これまで「テナント導入による収益安定化とコスト削減」「土地建物購入によるコスト削減」などの取り組みを実行し、安定的な黒字を維持できる体制となりました。さらに、資本構造の見直しを進めたことにより、今期より配当可能な環境が整いました。中期経営計画では、次なる段階として「新規テナント誘致」「飲食フロア強化」「川崎地区復活」を骨子とし、更なる収益力の強化を推し進める3ヵ年計画を策定いたしました。

(2) 重点施策

① 新規テナント誘致

2026年初夏に大型テナント「ラウンドワン」が横須賀店にオープンすることにより、横須賀店の空き区画が全て埋まるとともに、2026年夏に藤沢店1階へのドラッグストア誘致を実現することで、当社の収益基盤の安定化をはかります。

② 飲食フロア強化

2024年11月1日開示「固定資産の取得に関するお知らせ」のとおり、藤沢店8階レストラン街の一部を取得、現在空き区画となっている区画において、新店舗（飲食店）の誘致を予定しております。また、横須賀店では、ラウンドワンオープンによる来店客数増加を見越し、回遊性、滞在率向上を目的として、カフェ等軽飲食店舗を導入する予定です。飲食フロアを強化することにより、館の魅力を向上させます。

③ 川崎地区復活

2015年5月に閉店した川崎店は、現在サテライト店舗として営業を続けておりますが、いまだ地域でのブランド力は健在であり、そのブランド力を活用した来店型店舗としての生まれ変わりを計画、川崎店の収益拡大をはかります。

(3) 計画期間

2027年8月期から2029年8月期まで（3ヵ年計画）。

(4) 数値目標

2029年8月期（最終年度）において、売上高5,005百万、営業利益291百万円、経常利益190百万円、当期純利益134百万円を目指してまいります。

「中期経営計画」の詳細につきましては、添付資料をご参照ください。

以上



株式会社さいか屋 中期経営計画

2027年8月期～2029年8月期

2026年4月1日

業績の振り返り 3期連続黒字化を実現

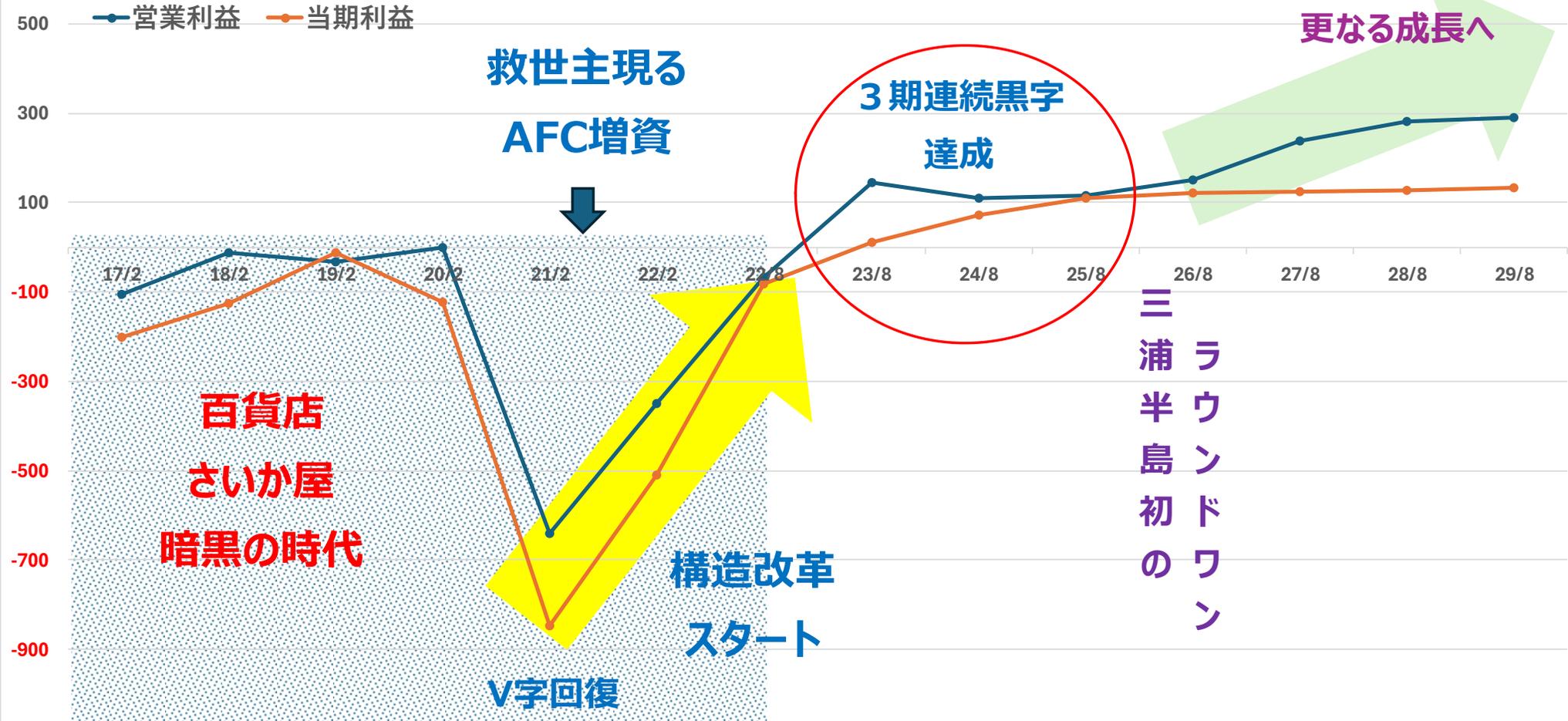
(単位：百万円)

	2022年 8月期	2023年 8月期	2024年 8月期	2025年 8月期	今期 業績予想
売上高	2,416	5,204	4,950	4,632	4,800
営業利益	△69	144	110	114	150
経常利益	△79	黒字 132	黒字 100	黒字 135	140
当期純利益	△82	9	72	110	120

※2022年8月期は決算期変更の経過期間となり、
6ヶ月間（2022年3月1日～2022年8月31日）を連結対象期間としております。

業績の振り返り 9期ぶりの黒字化、さらなる成長へ

さいか屋復活劇場



現在の取組みの進捗状況

これまでの取り組み

- I. テナント導入による収益安定化とコスト削減
- II. 土地建物購入によるコスト削減
- III. 資本構造の見直し（健全化・配当再開）



中期経営計画へ

新規テナント誘致

飲食フロア強化

川崎地区復活

中期経営計画の骨子

新規テナント誘致

- 2026年初夏 横須賀店にラウンドワンオープン
- 2026年夏 藤沢店にドラッグストアオープン

飲食フロア強化

- 藤沢店8階飲食フロアを再構築
- ラウンドワンオープンに対応する飲食店の強化

川崎地区復活

- 来店型店舗に向けた取り組み
- 川崎地区「復活」にむけた再出発

今後の将来像

1. 2026年初夏 横須賀店にラウンドワンオープン

横須賀店での大型テナント誘致の最後となるラウンドワンのオープンで横須賀店の空き区画が全て埋まる。

2. 2026年夏 藤沢店にドラッグストアオープン

藤沢店 1 階の空き区画にドラッグストアの誘致を決定。

3. 藤沢店・横須賀店の飲食フロアを再構築

藤沢店 8 階のレストラン街へ地元名店をテナントとして誘致予定。
ラウンドワンオープンによる来店客数増加を見越し、横須賀店へのカフェ等の導入を予定。

 **収益基盤の安定化をはかる**

2017年2月期から2029年8月期までの推移

(百万円)	回次	年次	営業利益	当期利益
過去10期	第85期	17/2	-104	-202
	第86期	18/2	-13	-124
	第87期	19/2	-34	-13
	第88期	20/2	-1	-121
	第89期	21/2	-639	-846
	第90期	22/2	-348	-509
	第91期	22/8	-69	-82
	第92期	23/8	144	9
	第93期	24/8	110	72
	第94期	25/8	114	110
今期	第95期	26/8	150	120
3カ年計画	第96期	27/8	237	123
	第97期	28/8	280	126
	第98期	29/8	291	134

V字回復の原動力

- ・固定費の削減
- ・お取引先様のご協力（取引条件改定）
- ・不採算ショップ撤退
- ・大型テナント誘致

➡ 増資AFC-HDアムスライフサイエンス、構造改革を開始

➡ 藤沢店：ヤマダデンキ誘致

➡ 横須賀店：ヨークフーズ誘致

➡ 藤沢店：ライフ誘致

➡ 横須賀店：ラウンドワン誘致

新規テナント誘致

飲食フロア強化

川崎地区復活

長期的には、所有不動産を活用した駅前再開発事業に着手予定

中期経営計画数値目標

(単位：百万円)

	今期 業績予想	2027年 8月期	2028年 8月期	2029年 8月期
売上高	4,800	4,911	4,981	5,005
営業利益	150	237	280	291
経常利益	140	157	180	190
当期純利益	120	123	126	134